

「サバイバルキャンプ in 花山」報告書

1. 趣旨

平成20年岩手・宮城内陸地震について改めて学習するとともに、いつ起こるか分からない災害に備えて、被災時に必要な知識・技術をキャンプの中で楽しみながら学ぶことで「防災意識」「生き抜く力」を身に付ける。

2. 事業の概要

(1) 期日 第1回 令和6年9月14日(土)～16日(月・祝) 2泊3日
第2回 令和6年10月12日(土)～14日(月・祝) 2泊3日

(2) 参加者

①参加対象 小学校4年生～6年生 および 栗原市在住外国人

②参加人数名 第1回 8名 (男3名 女5名)
第2回 12名 (男3名 女9名)

※このほか、防災ワークショップにおいては、保護者20名が参加

3. 連携・協力

栗駒山麓ジオパーク推進協議会 (共催)
宮城県教育委員会 (後援)
栗原市教育委員会 (後援)
栗原市国際交流協会 (後援)
栗原市危機対策課
栗原市消防本部 (栗原市防災学習センター)
栗原市役所花山総合支所・花山地区消防団
専修大学文学部助教 鈴木比奈子 氏

4. 企画運営のポイント

- プログラムに岩手・宮城内陸地震のタイムラインに準拠して避難訓練を設けることで参加者に対し、非日常における場での有事の体験や当時職員による被災時の自然の家の紹介を行い、震災を後世に伝える。
- 栗駒山麓ジオパークや栗原市防災学習センターなどの地域の学習資源を活用し、学習旅行の一例となるよう検証を行う。
- 消防、警察、栗原市、ジオパーク協議会等の関係機関や有識者と連携しより質の高いプログラムの提供を行う。また、検証を行い、新プログラムの開発を行い、検証を行う。
- 可能な範囲で実際の被災時を想定し、炊き出し訓練や避難所設営などを行い、被災時に必要な知識や技術を学ぶ場を設ける。
- 有識者の講話や親子参加のワークショップを設けることで、日ごろの備えについての学習の場を設ける。

5. 日程

第1回

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
9/14 (土)	受付 栗駒山麓ジオパークビジターセンター 9:30			受付	開講式 レクリエーション 昼食(弁当)	内陸地震を 知ろう!		内陸地震を見よう!			自然の家着	夕食 (食堂)	まとめ活動	入浴	就寝準備・ 就寝	
9/15 (日)	起床 身支度	朝のつどい	朝食 (食堂)	活動準備	防災 アドベンチャー	自然の家と 内陸地震	昼食 (食堂)	地域と防災	被災と食事			暗闇を 歩こう	避難所体験			
9/16 (月祝)	起床 身支度	片付け	朝食 (食堂)	活動準備	防災グッズづくり ～簡易コンロを つくろう!～	昼食 (食堂)	地震・火災を感じよう!		閉講式	解散 9/16 栗原市防災学習センター 15:00						

第2回

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
10/12 (土)	受付 国立花山青少年自然の家 9:30～ (10:00までにお集まりください。)			受付	開講式 レクリエーション ロープワーク	昼食	ロープワーク 火おこし体験	テント設 営	サバイバル飯を つくろう①	夕食	過 夜を 楽し く!	入浴	テント泊			
10/13 (日)	起床	朝のつどい	サ バイ バル 飯 を 作 ろ う②	テント 撤収	ブルーシートで テントをつくろう!	昼食	避難所設営 防災グッズづくり			防災食を 食べよう①	避難所体験 ※研修室泊					
10/14 (月祝)	起床	防災食を 食べよう②		避難所撤収 活動準備	※防災ワークショップ 家族で防災を 考えよう!	昼食 (食堂)	まとめ	閉講式	※10/14の防災ワークショップ親子参加のプログラムとなります。 保護者の方は10:00までにお越しください。							

6. 主な活動内容

第1回



内陸地震を知ろう (ジオパークにて)



防災アドベンチャー (避難訓練)



自然の家と内陸地震



地域と消防 (花山消防団)



避難所体験



地震・火災を感じよう (防災学習センターにて)



テント設営



火おこし体験



サバイバル飯をつくろう!



ブルーシートでテントをつくろう!



避難所設営 (段ボールベッドづくり)



防災ワークショップ (家族で防災を考えよう)

7. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

第1回

(4 : 満足 3 : やや満足 2 : やや不満 1 : 不満)

	4	3	2	1
① 事業全体	7名 (87.5%)	1名 (12.5%)	0名 (0%)	0名 (0%)
② プログラム内容	7名 (87.5%)	1名 (12.5%)	0名 (0%)	0名 (0%)
③ 事業運営	7名 (87.5%)	1名 (12.5%)	1名 (5.9%)	0名 (0%)
④ 職員の指導・助言	8名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
⑤ ボラ・実習生について	8名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

第2回

(4 : 満足 3 : やや満足 2 : やや不満 1 : 不満)

	4	3	2	1
① 事業全体	12名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
② プログラム内容	11名 (91.7%)	1名 (8.3%)	0名 (0%)	0名 (0%)
③ 事業運営	11名 (91.7%)	1名 (8.3%)	0名 (0%)	0名 (0%)
④ 職員の指導・助言	12名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)
⑤ ボラ・実習生について	12名 (100%)	0名 (0%)	0名 (0%)	0名 (0%)

(2) 参加者の声

- ・災害のいろいろな詳しいことが知れてよかったです。
- ・災害はいつ起こるかかわからないから、日ごろから防災グッズを用意しようと思います。
- ・こんなに段ボールが役に立つとは思わなかった。
- ・もし避難所に行ったときには、慣れていな場所だから、落ちつけるように避難所設営の体験は役に立つと思った。
- ・自然災害はとても危なく、身の回りのものが凶器になることが分かった。
- ・ロープワークでたくさんの結び方が知れたから普段の生活でも活かしてみたい。
- ・この事業に参加して自分でいろいろできるということに気が付きました。

(3) 保護者の声

- ・火おこしや段ボールベッドづくりなど、普段のキャンプでは体験できない経験ができてとてもよかったです。
- ・親子でハザードマップを見て、家にいる時、家族がバラバラだった時、沢山の事を考え、見直すきっかけになりました。災害を体験させたくはない気持ちが強いですが、もしもの時に備え考えていきたいと思えます。
- ・1回目のときも帰ってからずっと話をしており、2回目もずっとサバイバルキャンプの話をし続けると思えます。それくらい楽しい時間を過ごしたということだと思います。虫にも少しだけ強くなったような気がします。家で体験できないことをたくさんさせていただいた。
- ・たくさんの体験を通じて、帰宅後少し大人になったように感じました。また、子どもと一緒に地域の防災について話す機会はなかったので良い経験になりました。
- ・もっと長い方が良かった。(短かった)との声を聞けたので、何よりだと思いました。

(4) 成果

- ・関係機関や有識者の協力を得ることで、参加者に対して専門的なプログラムを提供することができた。一方、学習的要素が多いプログラムであっても楽しみながら取り組ませることができた。また、栗駒山麓ジオパーク推進協議会と共催で実施することにより、新しい防災学習プログラムの開発と検証を行うことが出来たとともに、今後の新たな連携に向けて、きっかけとなる事業となった。
- ・本事業の実施にあたり、地元の花山地区消防団に参画いただき、消防団の担当するプログラムについては、消防団が中心となって企画・実施した。消防団からは、今回の事業は、消防団活動の広報や、子どもたちとの楽しい交流の機会となったとの声をいただいた。また、子どもたちにとっても地域で活躍する消防団との触れ合いは、大変貴重な経験となり、双方にとって実り多いプログラムであったと感じている。これまで、教育事業の面においては自然の家と消防団の関わりは希薄であったが、本事業を契機として今後の事業においても連携を深めていきたいと考えている。
- ・プログラムに避難訓練を設けることで参加者に対し、非日常における場での有事の体験を提供することができた。また、当施設職員においても平成20年岩手・宮城内陸地震を振り返る貴重な機会とすることが出来た。
- ・プログラムの最後に、これまでの学習成果を踏まえて、普段の生活に潜む身近なリスクについて家族で考える「防災ワークショップ」の時間を設定した。アンケートには「帰ってから防災グッズの確認をしたい」「日頃から災害に備えることの大切さを感じた」などの記載があり、参加者の防災意識を高めることができた。
- ・令和3年度に当所で実施した「はなやま防災キャンプ」では当所のスタッフだけで企画・実施していたが、今回の事業では貴協会の助成を受け、幅広く関係機関の協力を得て実施できたことで、プログラム内容をより深く、複合的なものにすることができた。本事業で得た関係機関・有識者とのつながり、新しい防災学習プログラムは今後の当所における教育事業においても活用できるものであり、大変有意義なものとなった。また、本事業への参加者からも高評価をいただいております、参加者満足度の高い事業となった。宮城県は東日本大震災で大きな被害を受けたことを教訓として、行政、民間など多くの主体が様々な形態で防災学習に取り組んでいるところであり、当所としても、こうした取り組みと連携しながら、当所の資源・特色を活かした防災学習に継続して取り組んでいきたいと考えている。

(4) 課題

- ・当初予定していた栗原市在住外国人の参加については、栗原市国際交流協会と数度に渡り時間をかけて調整を行ったにも係わらず結果として参加を得られなかったことは非常に残念であった。在住外国人を対象とした防災学習への取組については、今後の課題として企画・実施方法について検証を行っていきたい。
- ・募集時期が小学校の夏休み期間に重なってしまい児童へ有効な広報を行うことができず、またチラシ等については学習要素が強い見出しになっており参加者を定員まで募ることができなかつたため、時期と事業の広報の方法について検討する必要がある。

担当：事業推進係 谷仲 宏樹